

1. 件名：新型転換炉原型炉ふげん及び高速増殖原型炉もんじゅの廃止措置実施状況に係る  
面談

2. 日時：令和5年4月19日（水）14時30分～15時45分

3. 場所：原子力規制庁10階会議室 ※一部出席者はTV会議にて実施

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

審査グループ 研究炉等審査部門

来住企画調査官、菅生主任安全審査官、上野管理官補佐、大島原子力規制専門員

文部科学省

原子力課

横井原子力研究開発調査官

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

敦賀廃止措置実証本部 本部長 他 4名

新型転換炉原型炉ふげん 廃止措置部 計画管理課長

高速増殖原型炉もんじゅ 廃止措置部 計画管理課 マネージャー

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 配付資料

資料1 「ふげん」「もんじゅ」の廃止措置概要

資料2 「ふげん」廃止措置の進捗状況

資料3 「もんじゅ」廃止措置の進捗状況

時間	自動文字起こし結果
0:00:03	原子力規制庁のオオシマでございますそれでは、本日の面談を始めさせていただきますと思います。早速ではございますが、ご提出いただいております資料に基づきまして、原子力機構の方からご説明の方をお願いしたいと思います。はい。まず説明の前に一言。
0:00:22	私原井の方からですねご挨拶をさせていただきます今日はお時間取っていただきましてありがとうございます。
0:00:27	今日はですね、もんじゅ、ふげんもんじゅ両方の廃止措置を統括するという観点から、実証本部の本部長やっております荒伊井も
0:00:38	参加をさせていただきました。今日は資料三つ準備しております1では敦賀地区のふげんもんじゅの廃止措置全体をどう
0:00:49	計画してどう取りまとめていくかというお話をさせていただき、あとふげん、もんじゅ、ここの廃措置の状況と、そして今年度をどのような
0:01:02	ご相談をさせていただきたいと、いうようなところをまとめて参りましたので、説明をさせていただきます。よろしく願いいたします。
0:01:09	はい。よろしく願いいたします。原子力機構の城でございます。
0:01:13	それではですね、資料の一番に従いまして、初めに、ふげんもんじゅの廃止措置の概要について、私の方から簡単に紹介をさせていただきます。
0:01:22	1枚おめくりいただきまして、目次ございますけれども、敦賀廃止措置の検討の体制がどうなっているのかというのを簡単に紹介をさせていただき、そのあと、今、認可されております廃止措置計画の中で、
0:01:37	ふげんもんじゅの全体工程がどうなっているのかと、こういうのを紹介させていただいた上で、それぞれの個別の資料の2、資料の3に従ってですね、ふげんもんじゅの廃止措置の今の進捗状況について、
0:01:49	ご紹介をさせていただきたいというふうに思います。2ページ目でございます。敦賀廃止措置における検討体制ということでございますけれども、大井原子力機構の体制といたしましては、一番上に、敦賀廃止措置の事象を部門長、
0:02:06	大賀、担当されてる理事がおられます。この方がですね一応最高責任者として、プロジェクトの計画、実施状況につきまして、プロジェクトマネージャーから報告を受け、必要な指示監督を行うということにしております、
0:02:22	これを行うための会議体として、右側に書いておりますけれども、部門会議とこういうのを方向性しております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:30	それで、その下に、敦賀廃止措置実証本部長というところで、左側にですね、敦賀廃止措置計画のプロジェクトマネージャーとしてプロジェクトの計画実施の管理というふうにあります。こちらがですね今私の方によります。アライの方が、
0:02:45	本部長としてプロジェクトマネージャーをしておるということになっておりまして、その右側に書いてありますけれども、付言廃止措置計画の統括会議というものと、もんじゅ廃止措置計画統括会議、この二つの会議体。
0:03:00	それぞれ本部長が議長を務めまして、全体のプロジェクト管理をしていくと、そういう体制にしております。そこから下において、左の方に行きますけれども、大津留廃止措置実証本部長代理というところが議長を行います。
0:03:16	ふげん 40 廃棄物戦略会議というのがございます。こちらにつきましては、増えから出てくる解体撤去物、あとはもんじゅから出てくる解体撤去物、それぞれの廃棄物について、どのように対応していくのかと、こういうのを、
0:03:32	少し前まではですねそれぞれで検討するような形ではあったんですけども、今後ですね、この補を両方を統合する廃棄物戦略会議というところで、解体撤去物についての取り扱いをどうしていくかと。
0:03:47	こういうところを放漫プロジェクトマネジメントしていく、大きくですね実証本部で主管するふうな会議体がこのような四つぐらいで、管理していると、そのような形になっております。
0:03:58	その下、2、それぞれがいる、おりますけれども、廃止措置推進室長の下に、一応私が計画調整グループグループリーダーとしていて、さらに右に行くとふげん所長をもんじゅ所長というのが、
0:04:12	おりそれぞれがそれぞれの初回の中で、現場の管理をしている、このような体制で進めていると、こういうことになります。
0:04:20	それで、2 ページ、1 ページめくっていただきまして、3 ページ目になります。
0:04:25	付言と思うのを、廃止措置の全体工程をですね、まとめて記載したものが、こちらの 3 ページになります。まず、上がふげん、下がもんじゅと、こういうふうにしておりまして、
0:04:38	ふげんの方法になりますけれども、ふげんの廃止措置計画はですね、すでに廃止措置計画にも記載させていただいておりますけれども、大きく

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	4段階に分けて実施するという事になっておりまして、左から重水系ヘリウム系の汚染の除去をする期間、
0:04:54	その次に、原子炉周辺設備の解体撤去する期間、次に、一番廃措置の本丸になりますけれども、原子炉本体の方解体撤去期間、
0:05:06	最後に甲斐建屋の解体期間ということでそれぞれふげんにつきましては、2008年から廃止措置が進んでいて、上に記載しているような工程です。進めてきているということになります。
0:05:19	それで、上の吹き出しにも記載しておりますけれども2018年度から原子炉周辺設備の解体撤去期間ということになりまして、原子炉周辺設備の解体撤去すでに実施しているということでございます。
0:05:32	あわせて、2030年度からなりますけれども、原子炉本体の解体に着手しようというふうに考えておりまして、現在これに向けての準備ということで、
0:05:42	遠隔、自動化は装置の開発というのをやり始めた、こういうところになります。これが今年度から始まり始めた。そういうところになっております。こちらが、
0:05:53	2030年ぐらいまで続いてそれから原子炉本体の解体撤去に移っていく。これ大きくふげんの廃止措置計画になりますけれども、ふげんにつきましては、すでに解体により発生した資材というのが出てきておりまして、クリア制度を使って、クレアの県民、
0:06:09	すでにいくつかさしていただいた部分があります。
0:06:13	この再利用に向けた取り組みと、こういうところについても、やってるというのが、付議の特徴ということになります。
0:06:20	一方で、もんじゅですけれどもこれ、ふげんの廃止措置に10年遅れてですね、2018年からもんじゅ廃止措置に移っておりまして、もんじゅの方も、大きく4段階に分けているんですけども、
0:06:33	まだ恩人の方はですねふげんとは違うと廃止措置の全体をですね、合わすことができておりません。これまでにできておりましたのは、2018年度からは、5年間かけて行いました燃料体の取出し期間。
0:06:48	これが昨年度までに終わりました、昨年度に位牌措置計画の変更認可をいただいて、この解体準備期間に入ったと。それが文字の状況でございます。
0:06:59	中のこの解体準備期間につきましては、2031年度までであるということになっておりまして、2032年度からですね、このふげんで言う原子炉周辺設備の解体撤去期間と同じ

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:13	ペーパー施設の解体、2、大きく着手していくということになりますけれども、ここについては、廃止措置期間、一、二というふうに、脇紗央氏ておりますけれども、この間の期間をですね、まだ決めていないと、こういうことになっておって、終わりが2047年度までと、そこだけが決まっている
0:07:31	そういう状態でございます。なので、もんじゅの方は磯千野を工程につきましては、今の基本的な考え方はですねやっぱりナトリウム機器の解体撤去、これを中心にやろうということにしている、第二段階である解体の準備期間は、名取三木の解体の準備期間と、
0:07:49	いうふうにしていて、第3段階の方は措置期間1というところから取り壊していくと、いうことになりますけれども、この解体準備期間の後半で行いますナトリウムの搬出、
0:08:02	それ以降ですねまだちょっと詳細を示しきれていないと、そんなような状況になっております。
0:08:08	で、文字下に記載しておりますけれども、2022年度までに炉内の使用済み燃料の取り出しというのを完了いたしまして、2022年度から2023年度から第二段階ということで、
0:08:21	まあね、使用済み燃料の取り出しを継続するような形で、遮へい体の取出しというのをやっておりますし、あわせて非管理区域に設置されております未ジョウ系発電設備の解体撤去というのは、
0:08:35	今年度から4年ぐらいかけてですね、やっていくと、そのような計画になっております。あわせて、名取の話につきましては28年度から31年度にかけて実施すると、こういうふうにしておりますけれども具体的なところはまだお示しできておりませんで、今まだその準備を進めていると、そのような状態でございます。
0:08:54	それで、藤枝門司の方は措置の工程を二つ並べてへ記載させていただきましたのは、やはりですね、変更しているふげん、こちらから後発のもんじゅ、これをどううまくコントロールしていくかというところが、
0:09:08	敦賀の部門としてのマネジメントの中ではとても重要だというふうに考えておまして、これまでももんじゅの方からですね、下に人的資源の投入というのを繰り返しておまして、現時点でもんじゅからですね、五名、FAの方に投入していると、そのような状態になっております。
0:09:26	それで、この遠隔自動化装置の開発というところがメインになるかなと思いますけれども、このふげんのほう廃止措置の経験を、もんじゅの方に還元していくということも、やっていかなきゃいけないかな。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:40	いうふうに思っております。そのような取り組みを今アライ中心にですね進めている、そのような現状になっております。それで、次のページからはですね、今の工程のお考え方をですね、簡単にお示した解体結局工事等の主要な手順ということでございまして、
0:09:58	こちらですね廃止措置計画の方には載せさせていただいておりますけれども、まず付議の部分でございます。第一段階であります重水系ヘリウム系の汚染の除去、こちらについてもすべて終わりました。
0:10:12	原子炉周辺設備の解体撤去期間で一番初めによる原子炉容器と接続している各設備の隔離措置、これも終了した、現在は主要な以下の原子炉周辺設備の解体撤去をやるということで、原子炉の冷却系と、
0:10:27	あとは重水系ヘリウム系これの解体定期をやっていると、いうことでございます。で、これからですねさらに検討詳細化していかなきゃいけないというふうに考えているのが、ブルーの点線で記載させていただいておりますけれども、
0:10:40	原子炉領域減額解体装置及び解体撤去物の搬送装置、これを設置するための検討をこれをさらに詳細化していかないと次に移れないというふうに考えておりますので、
0:10:52	現在ここを中心にやっているというのがふげんの状態ということになります。以降は、原子炉領域の解体が終われば、そのあと、主な以下の解体撤去工事を実施ということで最後、
0:11:04	非廃液背後はい、あと換気設備、放射線管理施設の解体が終われば、建屋の解体、汚染の状況を管理区域解除建屋解体、このように繋がっていくかなという感じで考えております。
0:11:18	最後のページになりますけれども、日本人はどのような状態かということ、ちょっと第一段階は、こちらに記載しておりませんで第二段階、第3段階第4段階だけちょっと記載させていただいておりますけれども、
0:11:31	もう次の方はですね、見ていただくとわかるように、赤枠で囲っております遮へい体の取出し作業、あとは右上系統発電設備の解体撤去。
0:11:41	この二つについては今年度から着手できるということになりますけれども、一方でこのブルーになってるところが多くあります。それはですね、やっぱりこのナトリウム機器の解体の技術基盤整備、これをきちんとやらないといけないというふうに考えてございまして、
0:11:58	第一段階の時からはずっと検討しておりますけれども、方向をもう少しですね、詳細化しななきゃいけないというふうに考えてございまして、この第3段階に移行するためのロードマップ、これをですね、概略は今廃止

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	措置計画には載せさせていただいておりますけれども、その詳細がまだ決められており
0:12:18	せんで、なぜこれを検討中と、そのような状況になっております。
0:12:23	はい。全体の方概要は以上でございます。
0:12:28	もしよろしければ8個で質疑応答をするか、もう個別の資料の方に行くか、
0:12:36	日本人。はい。すいません何もありません。はいクルスミです。相内ももんじゅの廃止措置期間1日っていうふうに分けてるじゃないですか。これ第3段階第4段階ってことなんでしょうかね。そうですそうです。はい。第3段階そこまでしてるんですけど。そうですね最後のページを見ていただくとわかるように、
0:12:56	建物の解体、管理区域の解除、このあたりを解体撤去設備の解体撤去が終わるところまでを第3段階というふうに一応はしています。なるほど。わかりました。
0:13:09	そこをお尋ねしたかったの最初に金藤先生のご説明をいただきましたけれども、江藤古井の廃止措置計画が廃止措置の計画の統括会議というものと、
0:13:22	ふげん紹介ってのがありませんか。これは、目的が違う会あれなんですかね検討体なんですかね、会議体の方ですね、何が違うんですか。もうふげんの初回の方になりますけど、多分もうふげんの現場の管理の話も低いので、相当細かく課長級以下が全員出て、
0:13:42	というようなそういう形になりますんでふげんの廃止措置計画の統括会議というものにつきましては、これは実は今年度から新しく設置しようと思ってるんですけども、日本人ますか、部門長ですね、とある危ないところなるほど。はい。ウエノも同じように、連続から設置していこうかなと思っているのは、
0:14:00	やっぱりこの不具合の廃止措置計画を進めていく中で、先ほど人的資源の投入とか、地形の還元とか、
0:14:10	いろいろですね、敦賀部門として、やっぱりもんじゅとふげんの連携もちょっとやっつけられるようにしなきゃいけないというふうに思っております、そういう意味で、これまではですね、かなりふげんサイトの方で、
0:14:22	一生懸命頑張ってもらってたんですけども、これをですねちょっと部門大でしっかりと統括できるようにしたいというふうに思っております

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	て、廃止措置計画くうについて、その廃止措置計画で本当に良いのかというところを再度検討したものを、
0:14:39	アライが、敦賀部門全体のプロジェクトとして見たときに、本当にそれで妥当なのか、もっとやっておくべきことがないのかと蒲池。
0:14:49	それはちょっとまだまだやり過ぎじゃないかとかそういうのをですね、有賀プロジェクトリーダーとして、管理できるような会議体にしていきたいというふうに思ってるほど、
0:14:59	もう少しこれから、本当にどんな運営をしていくと、効果的な青野にできるかというのはもう少しこれから検討する必要があるかなと思います。なるほど。はい。わかりました。
0:15:10	あれですよね。要は配布措置に向けた知見とか技術の還元ってお話がある中で、比木統括会議っていうのが、会議体との関係でどういうふう
0:15:21	あれですかね、チケットの技術の還元がなされる仕組みになっていくのかっていうのは今後の検討ということですね。なるほどぜひ願いたいなど。なるほど。
0:15:32	わかりました。ありがとうございます。特にだからその知見という意味では、やっぱり夫婦への配布措置の方が先行して進んでおりますので、昨年度かなりモールの廃措置の変更の時に、
0:15:45	性能維持施設のこととかでかなり議論させていただいたりとかがあったんですけども、同じようにですね、付議が先に先行して進んでいる中で、同じ考え方でやっぱりやっていけばならなきゃいけないなというふうに思っています。
0:15:58	その辺りを、なかなかサイト同士で独自にやるっていうのはなかなか難しいかなと思っておりますので、このふげんともんじゅが一体になれるような感じに、
0:16:09	でき、できるようにしたいなと思ってるんですけどもまだちょっと、どういうふうによく運営すると、今のやりたいやつができるかってのはこれから相談だろうなと思っています。はい、わかりました。
0:16:30	よろしければ次の資料の方に、とりあえず行かせていただけますかね。はい。では資料2番の方で、ふげんの廃止措置の進捗状況につきまして、ふげんから今日来ておりますナカムラの方からご紹介させていただきます。
0:16:42	よろしく申し上げます。原則、
0:16:46	ページめくっていただきます。
0:16:49	先ほど長の方から、4段階に分けて、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:16:55	しますと話をお伝えしましたけど、今ですね、二つ目の原子炉周辺設備の解体撤去期間に今、今、
0:17:03	ですけど、10人いまして、ここのパーキング。
0:17:10	山田都築の一部書いてってことハミングセンターに本体は残ってますけど、薄井とか、また三明にある機器をですね、対応して、刷っできる2030年の原子炉本体に向けて、
0:17:22	その周りの周辺設備の解体を受けて進めます。
0:17:27	はい、伊田橋野ですけど2030年からですね減少社会提供して、最後、2000、40年間、建屋の解体終えて、熱を完成すると、そのような流れとなっております。
0:17:43	ページ2ページに行っていたきまして、これ書いた時の実績ってことで、これ
0:17:50	2の理論ですかね。確認したいのがありますけど、ここがすでに改定的をやった場所になります。マーチとしましてはちょっと重複しますが、追記とか、
0:18:00	あと湿分分離器の給水加熱器松永設備をあらかじめ残ってる部分はですねこの表なんですけどここは、
0:18:13	田井本体、あと発電機ありましてここが残っていると、そんな状況でございます。ちなみにこの市復水器とか、そういう大型機器を解体撤去したその跡地はですね、
0:18:24	除染装置とか、スマートプロマネ入れて、跡地利用していると、この状況で進めております。
0:18:33	次に3ページめくっていただきまして、よろしいですか。
0:18:37	最初に実績計画なんですけど、2018年からですね減少してまして、基本的にはその解体物にですね、をイメージしながら、順番を決めて書いて提供してます。
0:18:52	試験の場合はAとBさんは二つありまして、2019年度からですねLで2020年度から2022年にかけて、昨年度ですね、技術が入ってくれました。
0:19:04	これからですね、大型機器、今城木戸ランプとか、再循環ポンプっていうのがちょっと一部残ってますので、そこをですね原子炉本体の改定撤去前にして、撤去を行っていくと、そんなような段取りを進めています。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:17	それから2設備のスラグから、詳細な中身をちょっと紹介させていくと、貫通孔、はい。そうですね。この2019年の2020年のその下に、ショート原子炉等ですね。
0:19:33	その途中の加工っていう観点でお伝えしましたが、今、やっぱりその原子炉建屋っていうのは結構将来の手狭なんです。うんこともあって原子炉建屋で発生した会社できるそのタービン建屋の方に、
0:19:46	徹底、そちらで処理する計画としておりますので、さっき開口もですね、行って進めております。
0:19:54	次の4ページ目がですね、
0:19:57	記載しました-3×5の設置の話です。このスライドの右下が三つ目としまして左側が原子炉建屋で右側がタービン建屋となっております。
0:20:12	ということで、この黄色の見にくいかもしれないですけど、建屋間の貫通孔搬送ルートって書いてあるところが設置箇所、基本的にこのたコンクリートが4メートルがあるんですけど、あそこをですね、
0:20:25	高さ4メートルが3メートルぐらいの開口を設けまして、そこにシャッターをつけて、会社物的物をですね搬送できるようなことをしています。タービン建屋の方におきましては、この慣例的物の場合もそうですが、
0:20:39	動線としてクリア測定、そんなところを進めております。
0:20:45	C S Oか、次のですか。
0:20:50	こちらは機器解体の状況で、ちょっと厳しいんですけど、基本的に今この真ん中のIII契約まででいうと、この緑色ですね。
0:21:02	対象の機器ですが、
0:21:04	例えば主蒸気管とか、審査で発生した状況でタービン建屋に持ってくような、主蒸気管とか、
0:21:11	あとは戸田最終間オンフォールトここに記載のような、津川のもですね、機器を基本的にすべて反対してございます。
0:21:21	はいそれでは次のできるんですか。
0:21:25	こちらのリルートばらつき反対の状況でして、
0:21:28	同じようにですねいると同様の、主蒸気とか核減ったとか、船木はもう解体しまして、柘植の場合は整理をですね原子炉の上部から不同装置で、
0:21:42	苦労してるするってことで、Bグループの関係におきまして、制御棒の駆動装置、支持プラグやですね、全員は何か、
0:21:51	そんなところに機器もあわせて解体を行ってますってことで、残ってる機器としましては、先ほどお伝えした、不在の理由

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:01	肌色のところの上記ドアや、下の方にある再活動という、そんなところ でございます。
0:22:09	それでは次の7ページ目ですね。
0:22:15	こちらは原子炉本体の方の話なんですけど、でしょうか。右のスリーR の図を見ているんですけど、中央にある肝心構造の部分が原子炉本体に なります。
0:22:29	不破常務にですね。
0:22:33	拡張した、このような、書いたようなプールを設置して、基本的には水 中で、このコンセプトは、原子炉本体で荒く切って、その探したもの を、その右側の
0:22:45	アイピーススペースの方で再案ということで、今日は須崎斉田のですね、 変更パラレルを進めることで、工期短縮を図る、そんなところをイメー ジして進めてます。
0:22:57	それらの方にですね、スマート日コミッション実証拠点っていうこ とを整備してございまして、ここにですね、左下にある、ちょっと小さ いんですけど、
0:23:07	円筒形として、外径4.5メートルの高さが10.5メートルのプールがあり まして、こういうのは、多関節、遠隔水中ロボットで、
0:23:17	こっちの藤空我とパッカーの間にクレーターがあって、そこにレーダー ヘッドをつけてですね、すぐの構造材を行って、各月発生する粉じんの データとか、
0:23:28	そんなデータも取得すると思います。はい。このような取り組みを並行 してやっております。
0:23:37	とその次のページ。
0:23:40	こちらはですね、原子炉本体の解体を受けてもう一つの技術開発として 考えているんですが、先ほどお伝えしたその原子炉本件とその上下する 解体をプールの溶接する接合する位置ですね。
0:23:55	今、接合する位置と考えている部分は、わかりづらいんですけど、レモ ン構造物等の解体プールを直接拔出をすることを考えてまして、そうな ると、やはりその線量が、
0:24:08	上がってしまうと、一つもありますので、ここの遠隔での溶接、あと遠 隔での検査、そのような技術開発が必要だというふうに考えておりまし て、あそこはですね、
0:24:18	すみません、工程延伸させていただいた通りになっておりますが、そこ をですねまず2年間でしっかり基本設計を行って、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:28	残りの5年間やるべきところをですね、詳細を詰めていく松元考えてございます。
0:24:39	5ページ、9ページさせていただきます。こちらからがですねフレームのクリアの制度運用ということで、これはですね配当性向に記載してますけど、約4190トンが宮川金属として、
0:24:53	設定してます。何トンですか。4190トン記載してると思います。このうちタイプ建屋から発生する金属約1100万ですね。
0:25:06	こちらはフレーズに音声が出てまして、その分解いただいて、
0:25:12	第4、4回ですね確認書の授業を十分いただきまして、ということですね、ご理解いただいております。今現在第5回目の申請ということで、約111トン安心させていただきます。
0:25:28	ということで、計画的に、
0:25:33	しもフェーズ直前にかけて、
0:25:38	栗原金属材料の方の実績状況です。こちらですね左側にその分をクリアリングするというのありますけど、策定した金属を申し上げます。
0:25:49	大きく二つ、実績としてありまして、まず右側の車両の製作ですね、こちらにつきましては、計算時の確認なんですけど、続きまして、一つはですね、
0:26:01	ここの駐車場に、
0:26:07	設置しました。左側にですね送流これは福井県の福井っていうのも同じですかね。そんなデザインを入れていく、右側にふれあいの金属を使ったりサイクル品ですよって話、坂関野プレートですね、をつけてPRをさせていただきます。
0:26:27	さんが30日ですね計数公開もさせていただきます。
0:26:33	下ですね、照明とサイクル3の製作こちらはですね、エネ庁さんの事業になるんですけど国プロへの協力ということで、2021年度から継続して、登録させていただいております。まず2021年度は、
0:26:48	ギャンブルワーキングをですね約4.6t関係ないようにですね、送って、溶融してインゴットを作ると、要はシンライ企業ですね1台グラウティングの取り扱いの実証を2021年度はしてます。
0:27:01	2012年度は、この特化したインゴット再加工、県内企業でしましたんで、そういったものには、照明等々、あとサイクル3度になります。
0:27:12	タイプ3号は、基本的にはその人はですね、この下に書いてるんですが、津村工業高校、あと福井南高校、高校に設置しております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:24	この照明等は、この学生さんにもデザインをいただいて、一緒になって進めているなというふうになります。
0:27:33	そうしたサイクルスタンドですね、こちらのお母様サイクリング。
0:27:38	サイクリングルートって言いまして、
0:27:40	福井県の方で、そのような再所長なんかな、次の方から本の方に受けたような、
0:27:46	タイプのグループを設置してございます。そこに計 10 ヶ所ですね、右側の、
0:27:53	最初に見えるんですかね。
0:27:56	はい。それが 113 ですが、それを 10 ヶ所設置してます。このポイントはですね基本的これまで原子力事業者内で取り、再利用を進めておりましたが、
0:28:09	ここから始めて、原子力事業所会議の設置ってことで、非常に県の推進役さんの意向もあって、進められた取り組みと考えております。
0:28:24	ネットのページ、
0:28:28	今年度の主な関係撤去作業としましては、ちょっと繰り返しなんですけど、現象のかけ合いの時期等も入ってきていることで、ここでいう状況は、13 時間本部、
0:28:39	このようなことをですね、今年度から昨年度の末からずっと進めてございます。
0:28:45	原子炉補助建屋の機器等の改定ということで、桜庭ですねセメント混練固化装置の認可をいただきました。企業庁で設置するためにそのアスファルト%装置等に現在限って適用して、
0:29:03	ページかせていただきます。
0:29:06	こちらはですね、今年度の主な変更認可の申請予定になります。一つ目が大きくなっておりまして、一つ目は、まず 7 月頃、ちょっとあの時期は予定なんですけど、原子炉設置変更認可申請を予定します。試運用後の災害対処に当たりまして、
0:29:23	正味農業者の方の見直しを考えてございます。あと改めてご相談させていただきたいと思います。あと、2024 年度、すいません、2024 年の 2 月になりますが、こちらは措置計画の変更、保安規定も併せてありますが、
0:29:42	目下未措置の必要な主要装置としては与儀名倉装置あります。そういうに当たりまして設計を見込んだ方設置したいと考えてございます。
0:29:54	補足的な説明は米津益田。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:30:01	こちらまず読み上げの話の前にですね、今の状態もあわせてご説明させていただきます。
0:30:07	これ、わかりづらいんですけど左上に使用済み燃料貯蔵プールがあって、そこに使用済み燃料があると。その浄化系冷却と業務課系の設備、そして中央にですね。
0:30:18	まず、原子炉補機冷却系の設備として、一番上ですね海水系とそんなような冷却するような設備を示したものでまず今はですね使用済み燃料が十分な期間冷却されているというふうに評価されたことを踏まえまして、
0:30:33	冷却しようということでスケールに記載して認可いただいています。
0:30:39	そのようなことで、そのね、除熱すべきその負荷が減ってきてることを踏まえて今までは原子炉器冷却系ということで一括で冷却したことをですね、
0:30:50	この必要なものにですね個別に冷却するという考えを続いて、変更認可をいただいておりますこれが2020年の11月に上川ではないんですね。
0:31:01	そのようなことで、廃止措置が進捗してきますしておりますので、電源をですね、出る部分も入ってますので、そういうところを踏まえまして、下のですね③の所内電気設備の見直しということで、
0:31:15	外部電源系、5本敦賀線との間で7kV送電線という形であったんですけど、もうながらkV事前に1本に絞って、
0:31:26	やろうとありますし、
0:31:28	外部電源は7kVで今まで非常に前々期がありますんでそれはそのバックアップ的な位置付けで、基本的に今非常に書いてますけど、もう非常用って位置付けは今ないと、理解してます。
0:31:42	ただ、そのバックアップとして今維持してます。
0:31:45	今この非常用の硫安線木野は、回数冷却起きてますので、
0:31:51	これは海水冷却だとか、海水が漏れるリスクっていうのもありますので、そういうのリスク低減や老朽化もしてますので、ここはですね、小型のっていう形で、
0:32:03	言えばその後考えます。それぞれに当たりまして、廃措置計画をですね、変更させたいと思いますのでございます。
0:32:15	理解させます。
0:32:31	ちょっと後ろに三行目をつけさせていただいておりますけれども、
0:32:35	先ほどの分野の紹介の話ありましたけど、17ページ見ていただくと、実際ふげんの業務管理体制。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:32:43	すごい簡単にですけども、記載させていただいておまして、先ほど言ったらここにいる課長級のメンバーが全員集まってやるのが場所の会議とそういう話になります。
0:32:54	それ統括会議は、これ、多分部長より上ぐらいしか多分出なくていいような感じの会議しようかなと思いますけど、こんなふうにやっていきたいかなで次のページの18ページにあるのが、ふげんの現在のプラント状態なおまして、
0:33:08	その灰色になってるところは、もう全部性能維持が終了しているふう、ものになりますというのがついてるところだけでそれだけは先ほど抜き取ったのが先ほど仲村が説明した、そのような感じになって、
0:33:21	この部分についても幾つか止めてきてるものがあるのはそういうのが今のふげんの状態になっていて、家も、2002年までしか運転してませんでしたので、運転が終わってから約20年経ってますので、
0:33:33	使用済み燃料もかなり冷えていって、塗布の方強制冷却みたいなやつは、なくても、主な安全上問題ないというところまで、廃止措置計画に記載させていただいてる状態になります。なので、
0:33:48	先ほどの高野ナカムラ様に、非常用、こういうような機能は、ディーゼル発電機は今もうないと言ったらそういうふうになります。
0:33:58	なので、あとは現場の方、作業をやりやすくしていくために、外字外部電源が喪失したときに、
0:34:09	一応予備電源を持つといた方が、現場での対応がいろいろやりやすいだろうということで、そのような設備をですね、導入していきたいというふうに考えていると。そういう、
0:34:25	よろしいですか。はい、わかりました。では次はドレンチャーをお願いをしてください。今後申請の話はまたちょっとその申請が近づいたところで詳しくお話を伺いできればと思うんですけども。
0:34:38	八幡のスライドのところですね、
0:34:44	その園カクウかつ自動で行うための技術開発を行っていきってお話がある中で、熟練工等同等レベルとなる溶接及び検査の遠隔自動化の実現って、すごく
0:34:58	難しいテーマなんじゃないかと思うんですけども、こういう何か技術開発ができないと、その原子炉本体の解体に進められないってお話になるんですかこれは。
0:35:12	そうですね、基本的には僕は

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:15	水中で安くなりますもんね。はい。要請することは、こう考えてますので、基本的には、ちょっと原子炉容器の解体のイメージをもう少し理解してもらった方がよければ、何か持ってきてるところがあるんだとちょっとだけ。
0:35:31	うん。言ってもらったりする。ずっと、そう簡単に大体ね多分ね、ここ今の説明と多分良くないですよねプールの中でいや、そうですねやっていくというお話を伺ったって伺ってはいるんですけども、言ってるのはそのプールをきちんと設置すると。
0:35:50	うん。そういうのがターゲットになっていて、はい。それをただ普通ならきちんと熟練工へちゃんと溶接管理しながら溶接するということになりますけれども、
0:36:01	すでにもう運転をした原子炉容器に対して、作業員が直接アクセスすることができないので、遠隔でどうするか。うん。なので、ここはある程度、
0:36:14	どの熟練工と同等レベルって言ったやつがどのぐらいなのかっていうところはちょっとあるかもしれませんが、
0:36:21	もう設置して入れてやってる時に水が漏れてくるようではやっぱりちょっと廃措置が止まっちゃうので、そこはちょっとやっぱり慎重にやりたいなと。
0:36:33	沼沢さん、ルールを設置しないと、原子炉本体の解体は水中解体できないので無理ですそうですねプールの設置をしてかつ今城が説明をしたように水が漏れないようにやらないといけない。
0:36:45	このプールは上から遠隔でやるんですけども、約5メートル先のところで、このプールの直径約10メートルの直径のこういう円周溶接をします。
0:36:59	それを無数、先占率だけで先月の碓井プールを溶接するので、
0:37:10	当然、うまくやっていないとひずみが出て、細胞のところで、最後の開先が合わないとか、なりますから、
0:37:21	今考えてますのは統治をですね、対角線上に、一対なのか三井なのかサンズイ置くのか、要するに60度ずつやるのか、190度、そうやってこう、
0:37:34	うまくですね、順番にひずみが落っこ発生しないように要請するそ、そ当然そこには、定説であれば、熟練の人が見ながらですね、ちょもう一層こかみたいなふうにとるところ、遠隔でやりますので、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:37:51	やっぱりしっかりと技術開発をしないと、そうしないところも0、各自しっかりしたプールを作るのがきついな、厳しいなというので、ご質問の、これができないと、原子炉本体書いてある面、難しいかと言われるとそれはやっぱり難しいというふうに思っています。はい。
0:38:08	最後人海戦術ですね溶接するなんていうのはちょっと、非いい攻撃資源人道的図で、それはちょっとやっぱり臨床溶接なんですね。そうですね。なるほど。
0:38:22	遠隔溶接技術自体は件数の方でも提供されてしまって、ただいま甲斐の方からご説明させていただいた通り、イズミ大きな練習になりますんで、フィルムとか考慮することがあって、そんなところを集めていく必要があると考えて、
0:38:39	かなり参考に、そうなんですか。はい。動かし始め、動かし始め、
0:38:49	まず原子炉建屋の周辺設備を、この赤い部分ですね、ちょっと今構築しちゃうんですけど、すいません。
0:38:56	まず撤去します。上部にこのような対策設置で、今お伝えした溶接が演習部分を要請します。
0:39:04	ちょっとイメージ。
0:39:07	今言ったんですよ。そうですね、遮へいの構造体がありますね。そこまで撤去して、今の環境構造の方で、麻生菅野違うから聞いてやってるからですね、順々に上部からじきにしているというんで最後、炉心タンク、
0:39:27	途端に、そうですね、巡回出してって、この時にはもう戦略をしていますんで、水をですね吸い上げながら、一部機種でも変えたりしながら進めていく、もうそんなところと考えてます。
0:39:40	今、こういった遠隔で解体する計画としておまして、出会措置計画もですね正の施設の中に解体装置ということで、僕カラー
0:39:50	設備として入れてます。基本的には公園の設計が整い次第、またその配置計画の中に詳細を書き込ませていただいて、認可いただきたいと思っています。
0:40:04	その中には活断層ですし、尖閣装置等解体を作るところに入ってますので、改めて詳細をですね、ご説明させていただきたいと思います。
0:40:17	場所、イメージなんで、本当加地新松崎公開なんて今日ちょっとここにも持ってくることはなかなかできませんので、ここの技術開発自体は2030年度、そうですね。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:40:28	今までにやってくってということなんでしょけど、これは計画的にあれですか技術開発の計画ってのは中出麻生の右側下にあるのが一応からですね書いてありますね。まず、5年で開発をして、2年で検証しようだなと思っています。
0:40:45	ただ後は、まだですねこの装置の設計検討に着手したところですので、これは先ほどナカムラから2年で、この設計検討をやるという話しましたけれども、この設計検討の中で、
0:40:59	先ほど新居が言ったように、どのぐらいの応答値の数を深野が変わってくるので、それに応じて第一段階第3段階に必要な期間が変わるだろうなというふうには思ってますけれども、でも、
0:41:11	そう技術開発はこの5年間でしっかりやろうというのを一応決めて今進めていると、そんな話になりますので、おそらく2年ぐらいかけて基本設計がある程度終わると、残り、
0:41:23	いろんなふうに進むのかとかですね、そういう話が、だんだん明確に工程が決まってくると、それまで変わる可能性はあるけど決めたことある。多分そんな状態がずっと続いていくかなと思ってます。今のお話を伺うとこの5年っていうのは、各要は結構不確実性がまだあるってそういうことなんです。
0:41:43	目標としてこの期間で必ずやらないといけないと我々は決めてますけれども、
0:41:48	この中身、本当にこれでやり切れるのかっていうのは、まず最初の2年間で結構重要なポイントになった場合ごめんなさい確認ですけど、これ今が第一段階っていう理解ですよ。ここで結局だからその5年なのか。
0:42:03	10年なのかわかりませんが、それが見積もられるっていうことになるわけですよ。変わる回りをして変更するということなのかなと、地元にも約束して、この期間はですね。
0:42:16	はい措置の終了時期に直結しますので、この7年間でですね、確実に開発する、そのために2年間、しっかりとですね、基本設計をしてですね、
0:42:28	7年間でやれる開発というのはどの範囲なのか、なので開発、遠隔でやるものも、100%を遠隔でやる。
0:42:39	必要もあるかもしれないし、例えばですね、もしも溶接をして検査をしてみても、少し欠陥が出たとき、じゃあその補修溶接をする。
0:42:52	いくつかのプロセスがあってそれをどこまで自動でやるのか。例えば、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:57	補修溶接っていう、極めて短時間でやれるようなやつは、場合によってはですよ。人事人力でですね、あの人が車へ
0:43:08	対応を背負ってですね、は入って行って、ざっとこう要請して戻ってくるっていうのもあり得ると思うんですけどそこら辺はこの2年間でどこまで、
0:43:19	開発しなくちゃいけないのかというのを決めていきたいと思って、これ技術、技術開発をするときに、協力企業とかそういった、何かあれですよ。いらっしゃるってそういう感じなんですけど、ここプラントメーカーさんの技術。なるほど。
0:43:36	円架空をやってる重工業さんがいますので。はい、わかりました。
0:43:47	ところしかやれないですけど、もともとのその溶接っていうかもともと上にプール作ろうっていうのは、だと思って。
0:43:58	これをやっぱ溶接する箇所を、
0:44:01	変更したことで、そうですね。それでこれは遠隔措置が必要になったっっちゃうことなんですよね。そうです。そういったんですね。
0:44:11	説明やろうと思って。そうですそういうに要は、直接に入って今、
0:44:18	この江田公園を撤去した後になってるんですけど、そこに説明される効果があるんで、その上に
0:44:25	整合性だったんですけど、そうすると、仕上げされてるので、できなくなっちゃってね。そうですねそこで溶接しちゃうと、ご理解いただいてる通り、
0:44:38	竹尾さんところが上がったんで、あっちで止めたようなところあるんで、そのリスクを完全になくしていきたいと思ったこともあって、直接課長ですね変更する。
0:44:49	そのような経緯です。
0:44:51	緑のところ、これ、本当はこのフラットの高高度色のエンバンがあるところ緑色なんですこれ。
0:44:58	緑が上に乗っかってるんですよ。それを外さないところ溶接できない、外すもんだから、遮へいが汚くなって、そこにはさすがに人が行けない。
0:45:10	ちょっとこれ、それから、ページの2、これがある状態のプールを説明してる絵で、この装置は、村長面接をするイメージだったんで、なるほど。すいません。
0:45:29	そうですね。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:45:32	なので、今の説明はいいですか。そう。すいません。はい。なるほど。その説明を丸裸にして、する必要が出てきたということです。
0:45:51	こちらはですね水があるところはあって、また置き換えつつあるんですけど、
0:45:57	基本的には遠隔で、
0:46:01	わかりました。
0:46:12	クリティカルなので、この辺りとかはどんな進捗なってるかとか、そういうところは結構、
0:46:19	この後も、適宜、タイミング見て情報共有させていただくような感じをさせていただきたいかなと思っております。
0:46:27	今年度も7月とか2月とか、前回の会議をお願いするタイミングがありますので、そういうヒアリングの中であわせてですね、今言ったようなその復元の現状、
0:46:39	についてもあわせて説明をさせていただければと思っております。よろしく願いいたします。
0:46:48	から先ほどの溶接っていうところがちょっとテーマになって、その課題になってるってことですけど、5ページですかね、10ページも推定の中で、
0:47:01	ロボットを使って、
0:47:02	取り出していくってところの、そこについて特に今のところ何かこう、技術的にクリアしなければいけないような課題というところではなくって、これ淡々とこちらは進めていくっていうような、
0:47:16	そうですね。はい。基本的に大きな課題があるとは思ってません。今ふげんはですね、管理部構造ってことで非常に狭隘な構造なので、国家資料も出してますけども、レーダーね。
0:47:29	神野内田が圧力管で約10センチぐらいの
0:47:34	直径開け判断なんですけど、そこに例がないと入れて、内側から聞いているってことで、このような試験をですね、今してます。今相磯中学上は、プラズマ切断装置といまして、基本的にやっぱ熱的切断装置でいる。
0:47:50	一番月を値って、藤は生理が多いと言われてるその装置なんですけど、それよりも前沢郡司の焦りが少ないとか、それは確認はしてて、
0:48:02	基本的技術課題という言いますか、そのような実証のフェーズとして、進めてございました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:48:11	どちらかというところなんすか。レーザーを使ってより安全といいますか、より良い
0:48:20	廃棄物！！
0:48:23	を、
0:48:23	あまり周りにチラシじゃないように、相馬基地出してしまうとそれをね、まず完成するため、改修してまとめなきゃいけなくなってしまうので、それができるだけ出ないように、
0:48:35	この後のことを考えて、そのイメージです。
0:48:44	じゃ、資料の3の方に行かせていただいて、文字の話の進捗状況について、受けますので、よろしくお願いをさせていただきます。
0:48:58	めくっていただきまして、進めてございます。第一段階解決工程ということで、一番上は先ほど城が説明した通り、開設者全体工程の4段階を示しております。
0:49:13	水色でハッチングさせてもらったら第二段階ということで、
0:49:17	昨年、藤第三課長、比嘉から電流から取り出して、第一段階に今回回答させていただきました。下に吹き出しで衛藤、第二段階の年度で工程表を記載させてもらってます。
0:49:32	はい。主な作業としましては、まずナトリウム機器の解体準備としまして、①遮へい体取出し作業、これ4年間でやります。その後、後半4年でナトリウムの搬出、
0:49:49	③番でこれは今年度からやりますけれども、水系発電設備の解体撤去。
0:49:56	④番で、これは第一段階が引き続きですけれども汚染分布評価の継続を実施します。
0:50:05	ナトリウムの搬出と、水気改定撤去をところがですね、まだ未申請になっております。製販4年分だけで申請しておりますので、またその時までには認可を受けさせていただきたいと思います。
0:50:22	それでは先ほど説明した工程の一つ一つの中身について、2ページから説明させていただきます。
0:50:29	2ページ①番、遮へい体等の取り出し作業でございます。目的としましては、将来、原子炉容器開催しますけれども、それまでにできるだけ余計なものは
0:50:42	撤去したいというところで、原子炉と原子炉の中に残ってます遮へい体、今、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:50:50	真ん中の図で、戸田衛藤六角形の図が書いてありますけれども、そこに青色で中性子遮へい体と緑色でも議論になったり、あとその他制御棒とありますけれども、これが残ってます。
0:51:05	これにつきまして、衛藤。
0:51:07	第3回で用いましたけれども、燃料交換装置、これを用いて取り出すこととします。手順も同じでございます。
0:51:15	これ燃料池に持ってって、炉心の中尾からもしていくという作業をします。
0:51:22	②ナトリウムの搬出でございます。解体撤去を進めるにはまず、保有しているナトリウムを外に出すということが必要になります。
0:51:33	ということで2028年度から2031年度にかけてナトリウム国に発する予定としてございます。
0:51:43	やっぱり排出するためには、一旦輸送用のタンクに入れて、国に持ってきますので、船等で持っていく必要がございます。
0:51:55	そのためにタンクを持ってく、そのタンクに入れる設備を新たに設置する必要がございます。
0:52:03	これに関しては、今検討を進めてございますので、検討が終わりましたら、着手まで認可を受けたいと思っております。
0:52:15	ページでございます。
0:52:21	ページを系統発電設備の解体撤去ということで、こちらは衛藤、
0:52:28	我々、タービン建物に延焼臨場系のタービン発電機等がおありでございます。
0:52:35	非管理区域のものになります。
0:52:39	A棟、これらをですね撤去しました。
0:52:43	その後
0:52:45	他の、その後控えてますナトリウム機器の解体をやった時に撤去し、解体撤去場所高い有効活用しようと思っておりますので、
0:52:55	まずはそのタービンの3階以下に設置されている水系の機器を解体撤去することを目的に、実施します。
0:53:05	④番、当然分布完成に関する評価、こちらは
0:53:10	当然第一段階からの継続でございます。
0:53:16	第一段階については、衛藤下に、一番下に書いてありますけれども炉内構造物の最終を考えてございまして、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:53:27	外が照射されて、どれだけってのは計算で評価してますけれども、実際にとった資料取ってですね、その計算と突き合わせて、評価を、高嶋より精度良くしていく、その活動をやって参ります。
0:53:44	4ページでございます。
0:53:46	こちらは合図し計画、さっきの工程表には出てこないものでございます。
0:53:52	シューズ燃料の冷却停止に向けた評価ということで、先ほど藤江の方でも、先行審査されてますけれども、
0:54:00	集積燃料の崩壊熱が低いということで、冷却系を使わなくても、
0:54:09	そのまま置いといても、
0:54:11	安全上だけをつけることはないっていうところがあります。それを確認するということで、実際に測定をやろうと考えて、
0:54:22	第一段階で、燃料がすべて燃料費入りしましたので、これで条件としてはどんどん持ってますので、夏場に燃料系冷却を止めて、測定する予定でございます。
0:54:39	9ページ、5ページでございます。
0:54:41	こちらは毎年継続申請書にも添付させていただきましたけれども、当もんじゅが、今後解体までに、何をしなければいけないのかというのをですね、今、現在わかってる段階での、の形に表したものがこちらになります。
0:55:00	桑島さんは燃料体の取出し管理ですし、真ん中にナトリウム解体のために何をしなければいけないのかというのを書き出してございます。
0:55:10	その下に水ジョウ系発電設備の解体撤去、汚染分布評価、建物を解体下に廃止して、不具合廃棄物の処理処分ということで、
0:55:22	これらをですね一つ一つ具体化してことで、
0:55:28	全体像をさらに詳細化して、はい措置計画を立てていきたいと思っております。
0:55:34	こちらにつきましては、江藤江藤今、昨年度の検討結果をまとめて、さらに具体化を進めてございますので、その結果が
0:55:47	ご説明いただきました。
0:55:51	で、あと最後ちょっと付け加えるんですけども、本年度は許認可申請を予定して、本日の方は予定してありません。
0:56:02	以上でございませぬ。はい。
0:56:09	ハローズの方の説明は以上になります。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:13	先ほどのふげんの方でいけば遠隔自動化装置の工程、これがクリティカルって結構重要だと思っています。門司の方は、
0:56:23	この第二段階のこのロードマップ、これがまだここに書いてるぐらいのレベルでしか書き表せてないので、
0:56:32	これをしっかり決めないと、第3段階への移行が本当にできるのかというところになるので、
0:56:39	これをきちんと方法を決めると、いうことと、
0:56:43	その前段としてさっき言ったようにですね、その段階で4年前半で4年分しか、
0:56:49	まだ認可をいただいておりますんで、後半に予定しておりますナトリウムの搬出、
0:56:56	これルームについての設計検討とか準備をしっかり進めると。
0:57:01	その二つがですねもんじゅの廃止措置についてポイントかなというふうに思っております。
0:57:06	ですので、そのあたり、もう少しちょっと今新体制に移行したばかりで、これを詳細に検討できる状況にはないんですけども、
0:57:16	昨年度までに検討して決定、検討した結果をまとめて、できるだけ早めにですねこの検討状況についてまたご紹介させていただいて、
0:57:27	そのときに、もんじゅの廃止措置計画の許認可申請のスケジュール、今後のタイミングは大体どのぐらいになりそうとかかそういう、
0:57:37	話ができるといいなというふうに一応考えています。ちょっとどのぐらいまで、まとめられるかと、こういうのはちょっとありますけれども、これあまり遅くならないようにですね。
0:57:48	しっかりまとめていきたいかなというふうに思っていると、そういうのが今の状態なので、全体総括いたしますと増えと思うんでそれぞれですね。
0:57:58	次の段階に移行するために検討しなきゃいけないものがそれぞれありますので、そのあたりについては、検討の進捗状況というのを、定期的にですね、ご紹介させていただくと、こういうことが必要かな。
0:58:12	国は考えています。上の方につきましては許認可のタイミングがありますので、そのタイミングを見計らってやりたい。北條の方につきましては、ちょっと我々の方の検討の進捗次第というところも出てきてますけれども、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:58:26	この検討の状況も含めて、別途また相談させていただきたいとそういうふうを考えているというのが、今の状態ということになっておりまして、この辺の状況を先ほどご説明した。
0:58:39	廃措置計画統括会議というところをうまく使って、きちんと進めていくと、そんなふうになら進められていたというふうを考えている、そういう次第でございます。
0:58:51	はい。すみません。この資料3につきましてご質問等あれば、よろしくお願いたします。クルスミですありがとうございます。
0:59:02	あれですかね今度もんじゅの次の廃止措置計画認可申請のタイミングっていうのは、第二段階の後半の中にはそういうことでそういう受け取りでよろしかったですかね。
0:59:14	そうです。まずはそれが一番重要だと思っておりますので、第二段階以降は、特に一番初めにあるのは、このロードマップの方でも一応ありますけれども、非放射性のナトリウムの抜き出し範囲ですよ。
0:59:31	この部分をですなやらしていただかなきゃいけないかなというふうに思ってますんで、あとは、もう少しちょっと我々の検討次第ですけれども、この第3段階移行に向けたロードマップ検討の中で、
0:59:44	やっぱりもうちょっと早めに解体に着手するべきものとかが出てくると、そういうのもあわせてちょっとやらして欲しいと、そういうのがあるかなというふうに思ってます。
0:59:54	例えば、この中でいくと先ほどから説明しています技術基盤整備、これ結構重要だと思っております、
1:00:01	この訪問中の5ページの、
1:00:05	ちょうど真ん中に非放射性というところの技術基盤整備というのがありますけれども、この中の2次メンテナンス0系の解体、これについては、本当に、そのあとの技術基盤整備に、
1:00:19	活用するのであれば、陽結構早めにやらなきゃいけないんじゃないかなと思っていて、本当にどのタイミングでどんな発行形ができるのかっていうのはまだ検討しているところなので、変わる可能性がありますけれども、
1:00:33	もう早くやりたいということになれば、場合によっては、同じタイミングで、これについても、を出したいと、こういう話が出てくるかもしれないと思っております。そのあたりがまだちょっとこのレベルなので、負圧してるので、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:00:46	このロードマップをですねもう少し詳細化して、どういうタイミングでどんな申請をしていきたいのか、我々の考えをもう少しまとめたいたいなというふうに思ってる。でも今の状態ですね。
1:00:58	はい。
1:01:06	規制庁の島野ですけど、ちょっと参考に教えていただきたいんですけど、2 ページで、遮へい体等の取り出し作業を今後やられるってことなんですけれども、
1:01:17	この真ん中の図でいうと、遮へい体等と言っているのは、青色で示された部分。
1:01:25	もう 328 体のみということで、1 月、この、ここに書いて全部そういうことで、500、500 台中 595 体、
1:01:36	さらにですねもう一度外に炉外燃料貯蔵槽とというのがありまして、
1:01:41	そこに 4 台、合計 599 体を、4 年間で燃料池に移送するという、そういう工事をしたいというふうに思っています。そういう意味では、残量体と同じ手順そうですねと同じ手順になります。についてはもう、
1:01:58	4 年で実施されて、はい。ただ、それよりも今回多いのかなと思ってるのはですね一応期間は 5 年間、オッズセットして第一段階やりました。で、
1:02:10	今回はちょっとだけ 1 年短い期間になっておりますけれども、それは、取り扱うものがやっぱ燃料体ではなくて、ただの
1:02:20	放射化はしておりますけれども、40%出力経験していて放射化してるんですけれども、金属の固体廃棄物の埋葬作業ということになりますので、
1:02:31	す、もう少し燃料体の取出し作業よりは、その慎重さが必要ないかなというふうに思っておりますして作業の効率性を上げていこうかなというふうに思っていて、結果として、1 年短い 4 年間で、
1:02:45	やっていこうかなというふうに考えていると、そういう感じですね、風間増えましたけど。
1:02:54	0 海外段階に取り扱ったやつは 530 体ありまして、今回 599 体経営があるので、
1:03:04	ちょっと多い 60 体ぐらいちょっと多いと。
1:03:07	そんな感じになりますはい。
1:03:09	大体 530 体処理されてるんです。なるほど。原子炉容器と炉外燃料貯蔵を合わせると 530 でありました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:03:19	燃料体を取り出して処理するっていうキャンペーンの間にやる体数が、4年間、過去5年間の経験もあってですね。
1:03:30	1回で、今140、いや、一方、200200から200。
1:03:39	燃料体取出しやろう。燃料体取出し第1キャンペーン、86体で終わりました。次は、130体。
1:03:51	烈也174。
1:03:53	最後124という、
1:03:56	そ、時間がかかるのはそことその間にある点検が確実に残るので、このキャンペーンの中でしっかりと200台やっていけばですね、
1:04:07	トータル4年、1年短くても、しっかりと出し切れない。
1:04:13	いうふうに考えてます。
1:04:17	ありがとうございます。それから小イズミ燃料の冷却停止、4ページなんですけど、これ、
1:04:22	燃料自体はまだ発熱はあるんだなあ。一応書類ってありますけれども、ほとんどありません。もんじゅは、ふげんよりもさらに古くてですね、出力運転したのは、
1:04:35	1995年になります。なので、約30年前、というふうになっていて、一体もう電球1個ずつぐらいしかないような状態になっておまして、
1:04:46	解析評価はすでに終わっていて、全く問題ない状態というところまでやっておりますけれども、やっぱりそれを実証しなきゃいけないというふうに思ってますので、今回初めて燃料体が、
1:04:58	白炭燃料体系がすべてプールに移りましたので、この状態で実施をすると、それをやらしていただいて、それを廃止措置結果に反映していくと、そういうのやっていきたいかな。
1:05:10	できますので、先ほど言った、この冷却停止、この法手続きにつきましては、
1:05:19	一応目標はですねここに記載しておりますけれども夏の期間にやっぱり実証して、燃料池の温度が過剰に上がり過ぎないか。
1:05:30	蒸発し過ぎないか、県の実施をさしていただければ、年間を通じて大丈夫という実証ができるかなと思っておりますので、夏の期間、6月から9月にかけて実施をしようかなというふうに思っておって、
1:05:44	その結果の評価をして年度内にはその結果についてご説明は必ずできるだろうというふうに思っています。それから、
1:05:55	配分の手続きをしているかというところについてもご相談かなというふうに思っていて、この手続きの仕方とかにつきましても、少し我々の方

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	でも頭の整理をさせていただいてですね、また別途ご相談させていただきたいかなというふうに思っています。
1:06:10	今日、すみませんそう。ちょっとわかってないので教えていただきたいんですけど冷却系と浄化系はまた別通ですね、同じ一つの系統になります。その一つの系統の中の冷却のところだけを止めるだけなので、ずっと循環をすみません。はい。
1:06:31	ありがとうございます。
1:06:39	東京の半数、はい。江藤。
1:06:46	の方はゆ汚れてないのは、1時間抜き出して、これに搬出する。そうですね。はい。はい。これ、一緒に呼ばれ、
1:06:59	そうですね。もうあれですけど、もう運転して、放射化してた頃から、約30年を経過していて、一応計算上はですね、このぐらいになると。
1:07:13	もう、クリアランスレベルまで落ちてるんじゃないかというふうに思います。はい。
1:07:20	あれなんですかね。英国にはどういう扱いで、土田栗原氏から普通に。そうですね。はい。
1:07:31	そうですね、英国でですね再利用していただくために、はい。運び出さ運び出すものなんです。廃棄物ではなくてですね向こうはもう進行で、資源そうですね
1:07:45	向こうでですね水酸化ナトリウムに、
1:07:48	変換して、
1:07:50	その中和剤としてですね。
1:07:54	N hのアルカリ溶液を作ってですね、
1:07:58	いずれかの、例えば、最初に線工場みたいなところで、山の中に使うとかですね。
1:08:09	そういう意味で資源として再利用するための目的で運び出すと、
1:08:17	いうことを考えてます。
1:08:18	長だから、一応うちの一次系のナトリウムを、実際にサンプリングして、
1:08:24	イギリス側の方に持って行っていただいて、分析もしていただいて、その結果も含めてですね、今みたいなプロジェクトで来てるんじゃないかなそんな話になってきています。はい。
1:08:38	原子炉容器の儘田下の方に、定例レベル下げて。そうですね。はい。それも含めて。そうですね。はい。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:08:51	そういう遮へい体とか送り出しますイメージ。そうしようかなと思うんだ。原油でいっぱいでございますんで。はい。ある程度その、それを吐き出したって
1:09:07	バッグインされないんですけど、既設のタンクはいっぱいです。だから、むしろ、ここの期間をどう使うかというのがポイントになっておりまして、
1:09:17	実際に原子炉容器の解体をするときに、ふげんであれば、かなり放射化しておりますけれども、ちょっとサワザキの説明がさらっと言ってしまうけど、去年、
1:09:29	もんじゅの汚染分布の評価をざっとした感じでいきますと、廃止措置計画の記載させていただきませうけれども、
1:09:38	助成も目的にするような、
1:09:41	同工事は必要ないぐらい、汚染していないというふうな確認しています。ポイントになるのはなので、とはいえ、40%の出力運転を経験しておりますので、原子炉容器もあり、この辺がピンモデルポイントになるかなと思っております、
1:10:01	なので、この原子炉容器の解体をするというときには、法汚染物ができるだけない方が取り扱いやすい取り扱いやすいので、
1:10:12	御社の進行性状から言えば、できるだけやっぱり空にしておきたい。なので、この期間を使ってですね、遮へい体の取り出しをしよう。
1:10:22	そんなふうに考えていますから、この遮へい体の取り出し方から、必ず終わってないと原子炉容器の解体ができないのかっていうとまっすぐではないかなと思っております、
1:10:32	後をできるだけ簡単にするためにですね、この遮へい体の取り出しをこの期間を使ってやりたいという。
1:10:40	ただ廃止措置、全体を俯瞰するとですね、プラントのリスクを低減するところが優先になりますので、そういう意味ではナトリウムの搬出の方が私としては優先かというふうに思っておりますので、
1:10:54	万が一、この遮へい材の飛び出しに多少トラブルがあって、工程が遅れると、こういうふうになってきた場合に、このナトリウムの搬出工程に影響をおよぼしちゃいけないというふうになるかなと思いますので、
1:11:08	途中で止めると、こういう行為ももしかしたらあるかもしれないというふうに思っています。そういう意味で、この遮へい体の取り出しについては、放射化量が多いやつから抜いていくと、そんな順番でやっていこうかなと思って。はい。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:11:41	規制庁の回復になればと原子力機構、その他で追加でこう御説明等ありました。はい。
1:11:55	じゃあ、それでは本日の面談をこれで終了させて、
1:11:59	すいません規制庁の五島ですがウェブで参加されてルーから何か追加でありましたね。
1:12:13	ヨコイさんが何かありますか。
1:12:17	はい。ありがとうございます文科省の横井です。クルスミ大坂元本当お世話になりますよろしくお願いいたします。文科省もですね監視チーム会合に参加をさせていただいたりこの面談でもですね、このような形で、
1:12:33	参加をさせていただいて機構と一緒にですね、きちんと対応していきたいというふうに思っています。
1:12:39	昨年度もですねふげんでは7年の延伸であるとか、
1:12:43	もんじゅについても小野第一段階から第二段階に移行するというですね、非常に大きなタイミングの中で、コンテ規制庁の皆さんには大きな多大の声、ご指導をいただいたというふうに思っています。
1:12:57	本当に感謝申し上げます。そういった意味でまた第二段階以降ですね今年度以降ももんじゅふげんいろいろ多々またいろいろな課題やっていかなきゃいけないということが多々ありますので、
1:13:09	引き続きですね、機構と一緒に情報共有とか、ご相談を密にしながらですね、しっかりと対応していきたいと思しますので、引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします。ありがとうございました。
1:13:21	はい、ありがとうございました。それでは本日の面談を終了させていただきたいと思します。本日はどうもありがとうございました。ありがとうございました。
1:13:31	ありがとうございました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。